

政策評価調書（個別票①-1）

【政策ごとの予算額等】

政策名	科学に関する重要事項の審議及び研究の連絡		評価方式	総合・実績・事業	番号	20
歳出予算額（千円）	19年度	20年度	21年度	22年度要求額		
（ 当 初 ）	691,945	747,170	655,575	649,007		
（ 補 正 後 ）	687,730	740,437	655,575			
前年度繰越額（千円）						
予備費使用額（千円）						
流用等増△減額（千円）						
歳出予算現額（千円）	687,730 <0>	740,437 <0>				
支出済歳出額（千円）	638,580	628,248				
翌年度繰越額（千円）						
不用額（千円）	49,150 <0>	112,189 <0>				
達成すべき目標及び目標の達成度合いの測定方法	政策評価調書（個別票②）に記載のとおり					
政策評価結果を受けて改善すべき点	政府における無駄の根絶に向けた取組の一環として、広報経費等の見直しが求められていることから、財団法人日本学術協力財団発行の「学術の動向」の一括買上げ及び関係機関等への無償配布は、平成21年度から中止することとした。また、政策評価結果を踏まえ、国際学術団体への加入のあり方について検討を行ったところ、国際対癌連合（UICC）から脱退することにより、平成22年度予算要求額の削減を行った。					
評価結果の予算要求等への反映状況	日本学術会議では、科学の向上発展を図り、行政、産業及び国民生活に科学を反映・浸透させるため、科学に関する重要事項について、学術的・中立的な観点から積極的に審議を行い、政府、社会等に対する提言等を発出しているところであるが、今後、行政、産業及び国民生活へ科学を一層反映、浸透させていくため、日本学術会議における審議活動をより活発化させることが求められている。 このため、若手研究者が、他分野の研究者と協力して社会問題の解決について議論する枠組みづくりを検討すべく、関連予算の要求を行うとともに、審議活動を支える事務局体制を強化すべく、定員要求を行う。					

政策評価調書（個別票①-2）

【政策に含まれる事項の整理、棚卸し調書との照合】

政策名		科学に関する重要事項の審議及び研究の連絡				番号	20		(千円)
		予 算 科 目						政策評価結果等 による見直し額	
整理番号	会計	組織/勘定	項	事項	21年度 当初予算額	22年度 要求額			
対応表において● となっているもの	A	1	一般会計	日本学術会議	日本学術会議	科学に関する重要事項の審議等に必要な経費	655,575	649,007	△ 227
	A	2							
	A	3							
	A	4							
	小計						655,575 < >の内数	649,007 < >の内数	△ 227
対応表において◆ となっているもの	B	1							
	B	2							
	B	3							
	B	4							
	小計						< >の内数	< >の内数	
対応表において○ となっているもの	C	1					< >	< >	
	C	2					< >	< >	
	C	3					< >	< >	
	C	4					< >	< >	
	小計						の内数	の内数	
対応表において◇ となっているもの	D	1					< >	< >	
	D	2					< >	< >	
	D	3					< >	< >	
	D	4					< >	< >	
	小計						の内数	の内数	
合計						655,575 の内数	649,007 の内数	△ 227	

政策評価調書（個別票①-3）

【見直しの内訳・具体的な反映内容】

政策名	科学に関する重要事項の審議及び研究の連絡					番号	18		
事務事業名	整理番号		予算額（千円）			見直し額（A） （B）+（C）-重複	うち政策評価結果の反映による見直し額（B）	うち執行状況の反映による見直し額（C）	政策評価結果又は執行状況の要求への反映内容
			21年度当初予算額	22年度要求額	増減				
国際分担金	A	1	104,571	109,676	5,105	△ 227	△ 227	政策評価結果を踏まえ、国際学術団体への加入のあり方について検討を行ったところ、国際対癌連合（UICC）から脱退することにより削減を行った。	
合計			104,571	109,676	5,105	△ 227	△ 227		

政策評価調書(個別票②) (政策評価書要旨)

担当部局名: 日本学術会議事務局
 担当者(連絡先): 企画課総括係 加藤(03-3403-1250)

評価実施時期: 平成21年8月

政策名	科学に関する重要事項の審議及び研究の連絡	番号	18																																																										
政策の概要	<p>日本学術会議は、我が国の科学者の内外に対する代表機関として、科学の向上発展を図り、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として設置された特別の機関であり、日本学術会議法において、その職務として、「科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること」及び「科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること」が定められている。</p> <p>日本学術会議においては、その設置目的の実現のため、具体的には、①政府・社会等に対する提言等、②各国アカデミーとの交流等の国際的な活動、③科学の役割についての普及・啓発及び④科学者間ネットワークの構築の4つの施策に重点を置いて活動を展開している。</p>																																																												
政策に関する評価結果の概要と達成すべき目標等	<p>【評価結果の概要】</p> <p>(総合的評価) 上記の4つの施策については、いずれも施策の目標を十分に達成しており、行政、産業及び国民生活へ科学を反映、浸透させる上で大きな役割を果たしている。</p> <p>(必要性) 日本学術会議法において定められている日本学術会議の設置目的(科学の向上発展を図り、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させる)を実現させていくためには、各学術分野の第一人者で構成される日本学術会議において、更に活発に政府、社会等に対する提言等を行うとともに、我が国を代表するアカデミーとしての国際的学術交流の積極的展開、社会との双方向コミュニケーションの充実等を図っていくことが求められている。</p> <p>(効率性) いずれの施策においても、ホームページの活用等による成果物の効率的周知、会議開催等に当たっての効率的な実施、他機関との連携等により、より少ないコストで施策が実施できるよう努めている。</p> <p>(有効性) 上記の4つの施策については、いずれも、以下のとおり具体的な成果を挙げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府や社会等に対し、61件の提言等を行っており、その内容が学術専門誌、公開講演会等で取り上げられるなど、提言等の内容の実現に向けての成果が見られている。 ・科学的知見が世界の政策形成に反映されるよう、G8各国等の科学アカデミーと共同で、G8サミットの議題に関する提言を共同声明として発出した。また、各種国際会議等への参画等を通じ、各国アカデミーや科学者との連携が強化されている。 ・日本学術会議主催公開講演会、地区会議主催公開講演会及びサイエンスカフェをそれぞれ5回、8回、26回開催し、いずれも多数の参加者を得るとともに、アンケートにおいても好評を博している。 ・我が国の研究活動を支える学術研究団体の機能強化に向けて具体的な提言を発出した。また、地域の科学者からの意見・要望等をくみ上げることで各地域の問題点等を知ることができており、科学者間ネットワークの構築に貢献している。 <p>(反映の方向性) 行政、産業及び国民生活へ科学を一層反映、浸透させていくため、今後とも、各施策を着実に実施していくとともに、更に効果的かつ効率的に各施策が実施できるよう、取組を進める必要がある。この点を踏まえ、予算要求等を行う。</p> <p>【達成すべき目標、測定指標、目標期間、測定結果 等】</p> <table border="1" data-bbox="399 1388 1546 1960"> <thead> <tr> <th>達成目標</th> <th>指標名</th> <th>実績値 (平成20年度)</th> <th>目標値 (平成20年度)</th> <th>達成目標・指標の設定根拠・考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">・科学に関する重要事項を審議し、その実現を図る。 ・科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させる。</td> <td>専門的かつ信頼性のある見解の提示・助言等を通じた政府・関係機関との連携</td> <td>実施</td> <td>実施</td> <td>各期(3年間)の提言等の発出状況や委員会の例年の審議の状況を勘案して目標値を設定した。</td> </tr> <tr> <td>各国アカデミーとの連携等</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>G8学術会議共同声明の発出</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>これまでの発出状況を勘案して目標値を設定した。</td> </tr> <tr> <td>アジア学術会議の開催</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。</td> </tr> <tr> <td>二国間学術交流</td> <td>実施</td> <td>実施</td> <td>これまでの交流状況を勘案して目標値を設定した。</td> </tr> <tr> <td>国際学術団体等への貢献</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICSU(国際学術会議)、インターアカデミーパネル等への対</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>これまでの対応状況を勘案して目標値を設定した。</td> </tr> <tr> <td>その他の国際学術団体等への代表派遣等</td> <td>実施</td> <td>実施</td> <td>これまでの代表派遣等の状況を勘案して目標値を設定した。</td> </tr> <tr> <td>共同主催国際会議の開催</td> <td>8回</td> <td>7回</td> <td>これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。</td> </tr> <tr> <td>日本学術会議主催公開講演会等の開催</td> <td>実施</td> <td>実施</td> <td>これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。</td> </tr> <tr> <td>地区会議公開講演会の開催</td> <td>実施</td> <td>実施</td> <td>これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。</td> </tr> <tr> <td>学術団体をめぐる課題についての審議等</td> <td>報告書の取りまとめ</td> <td>報告書の取りまとめ</td> <td>審議の結果等を外部に報告をする(報告書等を作成する)ことを目標値として設定した。</td> </tr> <tr> <td>地区会議の開催</td> <td>実施</td> <td>実施</td> <td>これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。</td> </tr> </tbody> </table>			達成目標	指標名	実績値 (平成20年度)	目標値 (平成20年度)	達成目標・指標の設定根拠・考え方	・科学に関する重要事項を審議し、その実現を図る。 ・科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させる。	専門的かつ信頼性のある見解の提示・助言等を通じた政府・関係機関との連携	実施	実施	各期(3年間)の提言等の発出状況や委員会の例年の審議の状況を勘案して目標値を設定した。	各国アカデミーとの連携等				G8学術会議共同声明の発出	1回	1回	これまでの発出状況を勘案して目標値を設定した。	アジア学術会議の開催	1回	1回	これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。	二国間学術交流	実施	実施	これまでの交流状況を勘案して目標値を設定した。	国際学術団体等への貢献				ICSU(国際学術会議)、インターアカデミーパネル等への対	2回	2回	これまでの対応状況を勘案して目標値を設定した。	その他の国際学術団体等への代表派遣等	実施	実施	これまでの代表派遣等の状況を勘案して目標値を設定した。	共同主催国際会議の開催	8回	7回	これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。	日本学術会議主催公開講演会等の開催	実施	実施	これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。	地区会議公開講演会の開催	実施	実施	これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。	学術団体をめぐる課題についての審議等	報告書の取りまとめ	報告書の取りまとめ	審議の結果等を外部に報告をする(報告書等を作成する)ことを目標値として設定した。	地区会議の開催	実施	実施	これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。
達成目標	指標名	実績値 (平成20年度)	目標値 (平成20年度)	達成目標・指標の設定根拠・考え方																																																									
・科学に関する重要事項を審議し、その実現を図る。 ・科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させる。	専門的かつ信頼性のある見解の提示・助言等を通じた政府・関係機関との連携	実施	実施	各期(3年間)の提言等の発出状況や委員会の例年の審議の状況を勘案して目標値を設定した。																																																									
	各国アカデミーとの連携等																																																												
	G8学術会議共同声明の発出	1回	1回	これまでの発出状況を勘案して目標値を設定した。																																																									
	アジア学術会議の開催	1回	1回	これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。																																																									
	二国間学術交流	実施	実施	これまでの交流状況を勘案して目標値を設定した。																																																									
	国際学術団体等への貢献																																																												
	ICSU(国際学術会議)、インターアカデミーパネル等への対	2回	2回	これまでの対応状況を勘案して目標値を設定した。																																																									
	その他の国際学術団体等への代表派遣等	実施	実施	これまでの代表派遣等の状況を勘案して目標値を設定した。																																																									
	共同主催国際会議の開催	8回	7回	これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。																																																									
	日本学術会議主催公開講演会等の開催	実施	実施	これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。																																																									
地区会議公開講演会の開催	実施	実施	これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。																																																										
学術団体をめぐる課題についての審議等	報告書の取りまとめ	報告書の取りまとめ	審議の結果等を外部に報告をする(報告書等を作成する)ことを目標値として設定した。																																																										
地区会議の開催	実施	実施	これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。																																																										
関係する施政方針演説等内閣の重要政策(主なもの)	施政方針演説等	年月日	記載事項(抜粋)																																																										